

上部気道閉塞疾患に対する閉塞解除治療を行うことにより、著しい改善をみた二次性気管虚脱の犬4例

末松 正弘 Masahiro SUEMATSU¹⁾、山城 識子 Satoko YAMASHIRO¹⁾、平尾 大樹 Daiki HIRAO¹⁾、
平川 篤 Atsushi HIRAKAWA²⁾、福島 隆治 Ryuji FUKUSHIMA³⁾、末松 弘彰 Hiroaki SUEMATSU¹⁾

頸部気管虚脱を主訴に来院する犬の中には、上部気道の閉塞を伴う症例が多々存在する。上部気道閉塞疾患としては短頭気道症候群、喉頭麻痺、喉頭腫瘍、鼻腔内腫瘍など様々である。この場合、頸部気管虚脱は二次的に発現している可能性があり、上部気道の閉塞が解除できれば気管はほぼ正常な径まで拡張するケースにも遭遇する。今回、4症例において二次的頸部気管虚脱と診断し、上部気道を治療することで気管径が正常化したのでその概要を報告する。

Key Words : 犬、上部気道閉塞疾患、二次性気管虚脱

はじめに

気管虚脱は日常よく遭遇する呼吸器疾患であり、原因は不明とされている。脆弱化した気管は時に上部気道閉塞により虚脱・扁平化する。上部気道閉塞の原因は様々である。今回呼吸困難を呈する犬3例(短頭種気道症候群1例、喉頭麻痺2例)において、二次性に頸部気管虚脱が認められたが外科的に上部気道閉塞を解除したところ呼吸状態の改善および頸部気管の拡張がみられたためその概要を報告する。

症 例 1

バグ、7歳、オス、体重7.3kg。吸気性に努力性呼吸がありレントゲンで胸郭入口部の気管虚脱Grade4が認められ紹介来院。鼻孔拡大術、喉頭小囊切除、軟口蓋過長切除を実施した。術後、頸部レントゲンでは気管の拡張が認められた。

症 例 2

M.ダックス、10歳、オス、体重5.3kg。吸気性の呼吸困難およびレントゲンで気管前部の気管虚脱Grade4がみられ虚脱状態とのことで紹介。紹介時、誤嚥性肺炎を呈しており酸素室管理下で内科治療のち喉頭の内視鏡検査および外科的治療を実施した。診断は喉頭麻痺であり声帯切除術を実施した。術後より呼吸は安定した。レントゲンで頸部気管の拡張性の改善を認めた。

症 例 3

チワワ、9歳、メス、1.5kg。吸気性呼吸困難を呈し紹介来院。術前のレントゲン検査では頸部中間部の気管虚脱Grade3を認めた。喉頭麻痺を疑い酸素室にて呼吸停止し、緊急的に左側の披裂軟骨側方化術を実施した。術後、呼吸状態は安定し、レントゲンにより頸部気管の拡張が認められた。

症 例 4

チワワ、10歳、メス、4kg。吸気時間の延長を伴う呼吸困難で来院。軟口蓋過長および肥満による上部気道閉塞と診断し、軟口蓋切除を実施した。術後、ストライダーは消失し、レントゲン検査では気管の拡張が認められた。

ま と め

上部気道閉塞を来す疾患は短頭気道症候群、喉頭麻痺、喉頭腫瘍、鼻腔内腫瘍など様々である。上部気道の閉塞により気管内外の圧較差の増大により吸気時に頸部前部から胸郭入口部の狭窄を引き起こすことがある。この場合、まず閉塞の原因になっている疾患を治療することで頸部気管の拡張性が改善する可能性があることが分かった。臨床症状や各種検査結果から頸部気管虚脱が原発性なのか二次性なのかを確認した上で治療に取り組む必要があると考えられた。

¹⁾ AMC末松どうぶつ病院：〒877-0011 大分県日田市中城町3-52

²⁾ ペットクリニックハレルヤ：〒811-2314 福岡県粕屋郡粕屋町大字仲原2544-1

³⁾ 東京農工大学：〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1



図1 喉頭麻痺のレントゲン写真（咽喉頭の拡張）

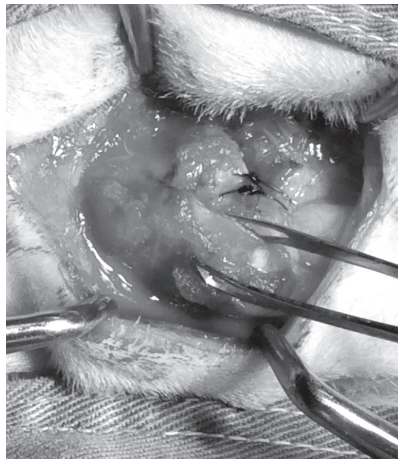
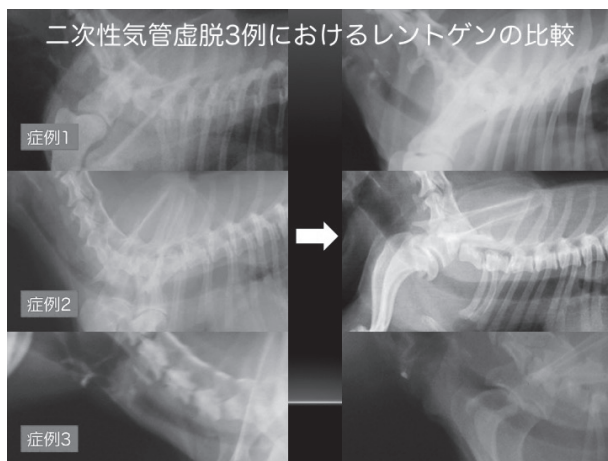


図2 喉頭麻痺における左側披裂軟骨側方化術



上部気道閉塞解除後の術前、術後レントゲン写真の比較